

# 令和五年 秋の課題作文・読書感想文

## 〈塾長講評〉

今秋のコンテストでも小学生には読書感想文に、中学生には課題文や資料に基づいて自分の意見を述べる課題作文に取り組んでもらいました。

中学生向けの課題は福井県沿岸に野生のイルカが出没して海水浴場の運営を続けるか否かで方針が揺れたことをモチーフに作成しました。そして、資料を読み取った上で正解が一つとは限らない事象にどのような立ち向かうのかを述べてもらう形式としています。まずは課題作文金賞受賞作品二つを紹介します。

一つ目の作品は資料読み取りが模範的であったことに加えて、自分自身の経験からサッカーのパスの出し方にも様々な「解」があることを取り上げ、周囲の多様な意見を取り揃えた上で最善策を見つけていきたいと結んでいる構成の円滑さが評価されました。もう一つの作品は、人を街に出没する野生の猿に例えて人間側の落ち度が大きいとした独創的な捉え方が評価されました。さらに、合唱コンクールに向けた練習体制のエピソードから、やはり様々な視点でものごとを見つめることの大切さを主張しています。多面的、多角的なものごとを考えることは本当に大切で、そのためには事象を言語化していく力が必要です。そこで唐突ではありますが、一つの作品の中で用いられていた、ぜひ皆さんに参考にして欲しい言葉を抜粋して紹介したいと思います。それは「人生は数多(あまた)の選択で

きており、自分の人生を構成するのは自分のした選択であってそこに正解だとか不正解だというものは存在しないのだ」「いきすぎた完璧主義はかえって自分の首を絞めるだけである」「自分の選択に自信を持つことだく中略くまた、自分とは異なる選択をした人にも敬意をもつて接することこそが必要」です。実に含蓄(がんちく)のある表現で、私は大いに感動しました。惜しくも金賞・銀賞受賞を逃したのは「グラフから数値を読み取り、小数点以下を切り捨てた百分率で表す」という条件を守っていなかったからです。条件を守って書くことの大切さを改めて認識してもらえれば幸いです。

続けて小学生向けの読書感想文における金賞受賞作品二つの紹介です。一つは「この世界からサイがいなくなってしまう」を題材にした感想文です。サイの角を目当てに密猟を繰り返して絶滅寸前に追い込んでいる人間の身勝手さに触れた上で、飼っていたペットの死を経て抱いた自分の感情と今後の心構えを表現している点が秀逸でした。もう一つの作品は「ナマケモノはなぜ怠けるのか」を題材にしている、一般的には悪口で用いられる「ブタ野郎」という表現もブタの性質や特性を知れば受け取り方が変わるという独自の解釈を行って、目に見えているものだけが全てではないという学びを獲得していました。そこが高く評価されています。

最後になりますが、公開される金賞受賞作品にぜひ目を通してください。その上で自分自身の作文や感想文を再読し、改善点を明確にして次の機会に活かしてくれることを強く願っています。